

会報

北鎌倉だより

2010年8月 NO.23



台峯の自然に学ぶ

オギ原 6/13 撮影

目次

| | |
|------------------------------------|----|
| ■ 「緑の基本計画」とその周辺 より良い緑を残すための予算…………… | 2 |
| ■ 会計報告 …………… | 3 |
| ■ 歩く会 改めて思うその魅力 …………… | 4 |
| ■ 歩く会参加者の声 …………… | 5 |
| ■ 山の手入れ ー 楽しみとその成果 …………… | 6 |
| ■ 台峯保全連絡会の活動 …………… | 7 |
| ■ 川上さんのちよつと昔の物語 …………… | 8 |
| ■ 台峯のほたる …………… | 9 |
| ■ 台峯の周辺 ー 歴史つれづれ ー ①山ノ内 …………… | 10 |
| ■ 活動報告 伝言板…………… | 11 |
| ■ 台峯の自然 …………… | 12 |

「緑の基本計画」とその周辺

平成6年に都市緑地保全法（現在の都市緑地法）が改正され、市町村が20年後を目標とした緑に関する基本的な計画を策定することができるようになり、鎌倉市では、平成8年4月に「鎌倉市緑の基本計画」を策定し、5年ごとにその見直しを行っています。

緑に囲まれた寺、神社、邸宅、路地などのたたずまいが鎌倉の魅力のひとつであることは多くの方が認めるところでしょう。その緑をどのように保全するか、鎌倉市都市マスタープランと連動する緑の基本計画の見直しが22年度内完了予定で行われています。

緑の基本計画見直しに際し、昨年9月当基金は市に対し、緑地所有者の負担軽減、宅地開発税の創設等を盛り込んだ意見書を提出しました。（会報22号掲載）。景観部みどり課を中心に経営企画部、まちづくり政策部からの委員で構成される、緑の基本計画見直し検討会が開かれています。けれども緑地の所有者が土地を手放さざるを得ない相続などの問題への対応は、実状の把握すら難しい状態です。

□緑地の所有者に、相続などの問題がおきた時、今のように相談するのは開発業者しかいないというのは不幸なことではないか？

□緑地保全のために、従来のようにみどり課など限られた部署で対応するのではなく、緑地保全を難しくする様々な問題に対処できる専門の部署を作り、所有者の必要な情報、可能な選択肢を示すことが出来ないか？

比較的小規模な緑地の保全には、きめ細かい対応が求められています。

台峯周辺緑地でテニスコート開発計画の持ち上がり、2009年保全が決まった土地のように、基本計画において、保全のための位置づけが充分とはいえない場合は、開発事業者の計画のままに土地利用がなされてしまう危険があります。

（保全に役立ててもらうように当基金が保全積立金を醸出、近隣の2町内会は募金を寄付しました。）

一方保全された緑地に関しては、よりよい形で次世代に残すため市民と行政とが協働し、知恵を絞っています。鎌倉市は「緑地の確保が進む中で、より質の高い緑を保全・創造していくことが、求められている。」「市民との連携が、より求められている。」（緑の基本計画施策取り組みの主な実績より）という認識に立ち、台峯では台峯保全連絡会の話し合いに基づき、公園海浜課も連絡会のメンバーとともに現地調査や、手入れを行っています。当基金は次に来る人たちのため毎月の手入れとマップ作りの記録を残しています。今回はオギ原の手入れを報告します。

（関連記事記事 P.6）

編集部



よりよい緑を残すための予算

会計より

当基金が掲げる新しい形の里山的実質保全に近づける為にマップ作り、山の手入れ等を行っておりますが、今年は池の生物調査、湿地の状況の確保等、今までより一層の調査が必要と考えられます。予算を確保は致しましたが、緊急事態が迫った場合は予算を少しオーバーするかも知れませんが、どうぞ今後ともご理解、ご協力お願い致します。

会 計 報 告

(平成21年4月1日から平成22年3月31日迄)

特定非営利活動法人

北鎌倉の景観を後世に伝える基金

| | 科目 | 金額 | 摘要 |
|-------------------|---------------------|-------------------|-------------------------|
| 収 入 | 正会員 | 69,000 | @3,000円 |
| | 個人会費 | 331,500 | 本人@2,000円 家族@500円 |
| | 団体会費 | 9,000 | @3,000円 |
| | 民間助成金 | 490,000 | みどりショップ他16件 |
| | 寄付金 | 63,000 | 今年度入金 25件 |
| | 機関誌収入 | 1,000 | 機関誌「北鎌倉の風」 |
| | カレンダー収入 | 355,000 | 400冊発行 |
| | 受取利息 | 5,477 | 定期預金他 |
| | 雑収入 | 5,254 | 保険料戻し他 |
| | 収入合計 | 1,329,231 | |
| 支 出 | (緑地の保全・管理事業) | | |
| | 整備作業費 | 33,678 | 道具研磨代 |
| | 賃借料 | 12,000 | 道具小屋借地料 |
| | 損害保険料 | 3,600 | 山の手入れイベント保険 |
| | 緑地保全寄付金 | 13,540,000 | 鎌倉市へ譲出 |
| | 雑費 | 16,503 | 台峯周辺緑地謄本料 |
| | 小計 | 13,605,781 | |
| | (普及・研修・事業費) | | |
| | 通信費 | 47,075 | 会員宛会報、集い発送料 |
| | 印刷製本費 | 298,076 | カレンダー製作費、会報2回その他 |
| | 編集費 | 70,000 | カレンダーデザイン |
| | 事務消耗品費 | 36,324 | 山歩きピラ、会報用紙、インク代 |
| | 保険料 | 4,320 | 山歩きイベント保険 |
| | 賃借料 | 52,000 | 山ノ内公会堂使用料他 |
| | 雑費 | 9,245 | 集い関係費用 |
| | 小計 | 517,040 | |
| | (広報・出版事業費) | | |
| | 通信費 | 54,327 | ホームページ回線使用料 |
| | 広告宣伝費 | 36,000 | 鎌倉朝日広告掲載料 |
| | 小計 | 90,327 | |
| (交流・協力事業費) | | | |
| 負担金 | 3,000 | 鎌倉NPOセンター年会費 | |
| 広告宣伝費 | 15,000 | NPOセンター会報への広告料 | |
| 小計 | 18,000 | | |
| (管理費) | | | |
| 会議費 | 24,947 | 総会費用 | |
| 通信費 | 84,420 | 会員証送付、振込料 | |
| 事務消耗品費 | 30,214 | コピー代、用紙代、封筒他 | |
| 賃借料 | 30,000 | 山ノ内公会堂10月迄 | |
| 雑費 | 31,294 | 定期預金、普通預金利息税 | |
| 小計 | 200,875 | | |
| | 支出合計 | 14,432,023 | |
| 保 有 資 産 | 現金 | 0 | |
| | 当座預金 | 531,396 | 郵貯 |
| | 普通預金 | 1,639,698 | 三東U¥1,621,991/郵貯¥17,707 |
| | 定期預金 | 112,000 | 三東U¥49,000/郵貯63,000 |
| | 合計 | 2,283,094 | |
| | 前期繰越金 | 15,385,886 | |
| | 当期収支差額 | -13,102,792 | |
| | 次期繰越金 | 2,283,094 | |

台峯の守りたい緑を知りたい、多くの人に知っていただきたいと歩き始めた会でしたが、保全が決定され、その自然の豊かさを、もっと知りたいと続けています。

季節ごと、お天気次第で様々な出会いがあります。配布された久保廣晃さん作成の資料の解説を受けて久保さんの先導のもと出発！

毎回新人さんが参加されて、ほかの緑地の話を聞いたり、知らない虫に出会ったり

【一期一会ゆったり学びの歩く会】です。今回は歩く会の様子をご紹介します。

●山ノ内公会堂に集合

受付のスタッフの明るい挨拶を受け、台峯の近況や今日見られそうな生き物の話に耳を傾けます。遠方から来た方も疲れをいやしてから出発できます。



1列になって谷戸に入る

●老人の畑

緑に囲まれた住宅地を散策しながら、台峯に登ります。森に囲まれた尾根道を進むと展望のよい畑につきます。遠くに円覚寺も臨めます。野菜はありませんが、樹木や野草の苗

が植えられ、土手もきれいに刈られて、山の中の畑の雰囲気を楽しめます。

●谷戸の池と小川や湿地

薄暗い斜面林を下りると意外なほど開けた谷底に出ます。外からは見えない秘密の場所、そう、これが鎌倉の里山“谷戸(やと)”なのです。森に囲まれた“谷戸の池”は神秘的です。谷底に湿地を眺めながら、水路沿いに歩きます。



(通称) 清水ヶ淵 谷戸の池下流部

水路が淵のようになった地点では水生生物達をそっと観察します。谷戸の散策路は細いので、1列になって歩くのですが、ここではみんな集まって、ワイワイ。アメが配られると一瞬(?) 静かになるのが不思議です。

湿地、オギ原を右に見て、山崎小学校の裏に出ると解散です。周囲を山にかこまれた小さな別世界がいつまでも保全されるよう、活動を続けていきたいと思っています。

久保廣晃

歩く会参加者の声

■ 6月20日の台峯散策に初めて参加させていただきました。鎌倉にこれ程自然な形で自然が残っていることに感動しました。草木そして鳥たちの様々な生態が見られて楽しかったです。この自然を守っていく皆さまの活動には頭が下がります。これからも機会がありましたら参加したいと思います。 加藤英夫

■ 2回目の参加です。 前回の、誰も関心をよせないような(?)植物の資料が面白く、次は何かしらと、楽しみにしておりました。



オトシブミ

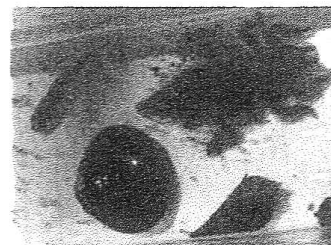
すっかり緑も濃くなり、田植え風景も、オトシブミの成虫も目にすることができました。・ホタル観賞の前に、ミドリシジミの交尾も…という胸

おどる情報も、台峯に自然が残るからこそ…。さまざまなかたちで台峯を守る人々のご苦労に感謝!です。 山本啓子

■鎌倉に引っ越して半年。こちらに移った喜びを空を眺め緑に親しみ感じていましたが、其の思いを一層深く実感したのが、台峯を訪れたときでした。

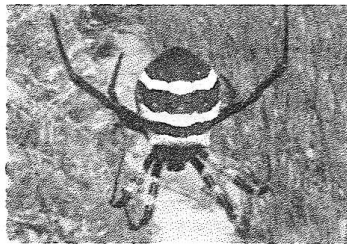
海と山の両方が楽しめる鎌倉は自然の豊かなところと知ってはいましたが、こんなにすばらしい動植物の住みかがあったとは本当に驚きでした。とにかく、ここは気持ちがいいです。心も身体もとても喜んでいるのを感じます。こうした貴重な場所を大切に残して下さった皆さんの活動に深く感謝しております。ホタルや日本ミツバチ、マシジミ等が、ずっと暮らしていける台峯でありますように、私もささやかながらお手伝いをしたいと思っています。そうした生き物を守ることは、私たちのいのちを守ることにもつながっていると確信しています。それは本当にここが気持ちのいいところだから。

村上佳穂



左上から時計回りで
ホトケドジョウの幼魚、
ヤマサナエのヤゴ、
カワニナ、マシジミ

歩く会で 見かけた生物



コガネクモ



ミスジマイマイ



ホオジロ

歩く会の資料のテーマ (2010年4月～7月)

4月 「新緑の台峯」 落葉樹の新緑 新芽

5月 「イネ科の植物」 カニツリグサ、トボシガラ、イチコツナギ…など

6月 「鎌倉はホタルの宝庫」 ゲンジ、ヘイケ、クロマドホタル (陸生ホタル) など

7月 「樹木の花や実」 ネムノキ、カラスザンショウ、コヒルガオ、ヤブカンゾウなど

山の手入れ その楽しみと成果

2004年12月台峯の保全が決定し、その翌年の春、神奈川県松沢知事の現地視察(6月1日)が行われる為、山崎小学校側入口一帯の湿地の草刈が行われました。秋になり、揺れ動くオギ原の光景に皆、感嘆したのを記憶しております。その翌年にはオギやアズマネザサが生え、その上にカナムグラ(ツル科で染料として使用されていた)が覆い、その時のような景色は見る事はありませんでした。昨年暮れ、野村不動産にその一体の草刈をしていただきましたので、あの景色をもう一度という願いを込めて、この7ヶ月延べ180人の方々が作業を行って参りました。

● 1～2月・・・ササの根切り

機械により刈り採られたその地は、ササかオギと思われる根っこが混在していた。ササの根元に剪定鋏の刃先を差込、根切りをした。力のかかる大変な作業だったが、しこしここと行った。

● 3月・・・カナムグラの新芽取り

ササの根切りを行っているうちに、間から5センチ以下のカナムグラの新芽が一面に出始め、一人千本を目標に10人ほどで作業をした日もあった。採った新芽は各自ビニールに入れ持ち帰った。

● 3月末～6月・・・オギの間のササ切り

オギの芽が出始めたと思うと、かなりの速さで成長していった。3月にカナムグラの芽を抜いたのであまり姿は見えなかったが、密生してきたオギの間に、ササも又オギに負けずに成長し始めた。まだ見下ろすことが出来る背丈だったので、中に踏み入ってササの根

切りを続けた。5月の中旬になると、オギの背丈が高くなり、密になっていったので、腰を下ろしての作業は出来なくなった。この時期のササは水分を吸い上げて成長するので、成長を止めるため根元に近い部分を切ることにした。5月中旬頃からのオギの成長は目ざましく、行くたびに高くなるだけでなく、山際へと広がり作業員としては悲鳴を上げていた。この間、多い時は週数回数人で通ったが、今後、この時期には時間と人力をかけられると良いのではないのでしょうか。

オギとササの成長の競争の様は、さながらワレリー・ゲルギエフ指揮のスラヴィンスキー(春の祭典)のようだった。オギがすごい勢いで押し寄せてくるそのすごさに只々圧倒されていた。

● 7月・・・又々カナムグラへ

今まで通っていた通路さえオギにさえぎられ、2メートル以上に伸びたオギをかき分けその日の作業の目的地をめざすが、空しか見えず何処を歩いているのか分からない状態でジャングルの遭難を思ったりもした。ところがふと見ればオギの上をカナムグラが巻きつきオギの上を覆い始めていた。花が咲き種子が落ちれば、来年もまた繰り返しになると考え、又カナムグラの引っ張りをはがし作業をした。(秋になると5メートル以上伸び、はがすのも力がいり腰痛の要因にもなる。)

1月、オギハラ再生は、オギとは知らず「すすきなのかな・・・」ぐらいで始まり作業は7月末に至ったが、この間自然との出会いが数多くあった。5月のことだったか、雨が降った後、池ができ、蛙がわたくしたちのおしゃべりに負けず劣らずの大声で鳴いていた。聞けば産卵のため山から下りてきたシュレーゲ

ルアオガエルとのこと。のどかだった。7月
はじめ頃作業する場所のそばに咲いていたネ
ムの花は、日光の当り加減も手伝い鮮やかな
色だった。7月の下旬広場予定地のカナムグ
ラ取りをした日は風があり、オギハラに向こ
うの山の木が揺れ動き、オギもまた頭を揃え
て揺れ動いている様も格別だった。

その時々自然が垣間見せてくれる美しさ
に何度も感激した。そんな自然が身近にあっ
てくれるということはあるがたく、またこれ
がいつまでもあって欲しいと思い願う。

秋のオギ原一面の揺らめく銀世界を楽しみ
にしている。

新楨幸子、奥野節子

台峯保全連絡会の活動

私たちの会は毎月1回の保全連絡会(会議)
と、ほぼ2回実施する現地調査の主要メン
バーです。前号でお知らせした通り、行政と
共に今まで行ってきた様々な試行作業の成果
を「台峯維持管理方針」としてまとめており
ました。この度保全に取り組む際の指針とし
て、基金を含む市民団体と鎌倉市公園海浜課
とで、「台峯の保全作業と付随するモニタリ
ング調査」と題する一覧表を作成しました。

年間を通じて月ごとの各ゾーン(源流の森
と里山の保全ゾーン、里山の保全ゾーン、景
観緑地と里山保全ゾーン)の地域別作業が洗
い出され、モニタリングの内容も検討されて
います。当然ながら各月の作業量は異なりま
す。6,7月は夜間のホタル観察がありますし、



雨量計の設置

オギ原の乾燥化を防
ぐため、ササや野草
の繁茂するこの時期
は刈込みの回数が増
えます。

あらかじめ想定出来
る作業は、有志が対応
しています。湿地の状態、ホタルなど湿地に
生息する生物、水路や谷戸の池にいる生物の

種類、数、棲息状況、雨量、土の質、等ざっ
と思いつくだけでも様々なデータを残そうと
努力しています。その成果を台峯緑地が自然
豊かな風致公園となるための実施設計に反映
させ、公園として供用開始後も、より良い保
全の助けになれば
と努力を重ねてい
ます。現地調査(モ
ニタリング)では、
水路、湿地などに
入るため長靴が欠
かせません。



水路の生き物調査

山ノ内の住宅から観光客とは反対の方向
へ、また山崎の、台の住宅から山(台峯)に
向かって、暑い盛りに長袖、長ズボン、長
靴、軍手の装いで歩く婦人がたは、街に異彩
を放っています。でも若い人達の参加も増え
てきていますから、今はやりの「山ガール」
(30歳前後の山登りを趣味とするおしゃれな女性)
よりも学究肌(?)の「里山ガール」として
認知されるといいなあと思っています。

もちろん「里山ボーイ」も。

みなさまご支援、ご協力お願いいたします。

市川節子

川上さんのちょっと昔の物語

サシバの巣

山畑の麦が黄金色に明るみ、谷戸の田んぼからはカエルの声が聞こえてくる季節だった。谷戸の雑木林の中に、大きな赤松が一本そびえていた。大人でも手に余る位の太さがあり、根元から5メートルぐらいは枝もなく真っすぐに立ち上がり、美しい樹形をしていた。その赤松の上のほうに、枝を集



梢にとまるサシバ

めた、大きな鳥の巣があった。子供達はトンビの巣と思っていたが、今考えるとサシバの巣だった。

その頃、鳥の図鑑は今ほど一般的でなく、子供達

は当然サシバなどと言う鷹の名前は知らない。くるくる空を舞っていればトンビだ。「白っぽいトンビだなあ・・・？」その程度の疑問は持っていた。子供達は、鳥の巣を見つけると悪戯にかかる。カラスでもミミズクでも、



飛翔するサシバ

木や電信柱によじ登って、雛や卵を取っておもちゃにしたのだ。トンビの巣を発見した子が、木によじ登ろうとすると、飛び掛かってくると云うのだ。「おっかなくて登れねえ～よ・・・」と、言うことで、再び仲間を引き連れてやってきたのだが、トンビが怖くて登れないのではなく、太い幹だ、おまけに赤松の木肌はよく滑るので、登ることが出来なかったのだ。子供達は代わるがわる幹にかじりついていたが登れない。その間、トンビは人を威嚇するような飛び方をして、上空で警戒していた。青い空に、透ける翼が脳裏に焼きついている。今なら確かに、サシバだと言うことができる。

川上克己

トンビ（トビ）とサシバ

トンビの名前で親しまれているトビは、海辺や川沿いに多いタカで、鎌倉では一年中普通に見られます。サシバは、里山に多いタカです。4月頃、日本で繁殖するため東南アジアから渡って来ます。トビは魚や死んだ動物などを食べますが、サシバはカエルなど小動物や昆虫などを食べています。10月初め頃南へ渡る群れが観察できます

近年、カエルなどが住む里山環境が少なくなり、神奈川県でサシバが繁殖している場所は数か所になってしまいました。台峯では9月頃、渡りの途中に立ち寄るサシバが見られる程度です。鎌倉にサシバ復活する日は来るのでしょうか？

サシバ 全長♂ 47 cm、♀ 51 cm、
翼を広げた長さ 103 ~ 115 cm
トビ 全長 60 ~ 65 cm、
翼を広げた長さ 150 ~ 165 cm

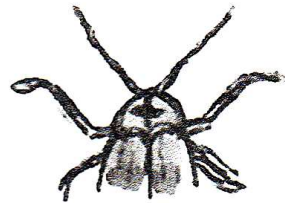
台峯のほたる



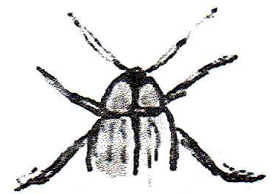
昭和の長い戦争の前、私の子供のころは少し町外れに出れば、用水掘や田圃の上に、ホタルはいくらでもいました。虫捕網でひとなぎすれば10も20も網に入ってきて来ます。持って帰って、寝る前蚊帳の中に放して眺めますが、翌朝は大てい畳の上に落ちて死んでいます。箒でパッパッと掃き出しておしまい、欲しければ又、次の晩出かければいいのですから。今から思うと嘘のような夢のような夜々でした。水の汚れや農薬の故で、ホタルは急速に光を消して行き、私の生活の中でもホタルは遠いものになっていました。

長い歳月を経て、再び台峯の自然の中で、闇に光るホタルにめぐりあうことになって私自身感慨深いものがあります。何しろ別の場所で養殖するわけではなく、すべて台峯の湿地任せなのですから、発生の予測はつきません。去年の夏、ホタルの餌のカワニナの生育状況を調べるため、湿地にふみこんで危うく遭難(?)仕掛けたり、という珍事もありました。今年の夏は少し数が少ないように思われます。ホタルには方言(?)があるってご存じでしょうか。中央構造線を境に、西の方のゲンジボタルは2秒間隔で光が強く、東の方は4秒間隔でやや明滅が弱いのだそうです。ところが、最近長野県辺りでは3秒間隔で光るホタルが現れているといえます。不思議なものです。「源氏物語」の「蛍」の巻は、光源氏の趣向で、五月闇の中、蛍兵部卿宮がホタルの光で、玉鬘を垣間見て歌を贈答するという風流な話ですが、西の方に棲息するのはほとんどゲンジボタルだそうですか

ら、ここで扱われたホタルも、私が山口で見たホタルも多分ゲンジボタルだったと思います。浮世絵にも江戸の美人が蛍狩りをしている有名な図柄がありますが、さて、この蛍はどっちだったのでしょうか。ヘイケボタルの呼称が現れるのは、ずっとあとのことのようにです。でも「広辞苑」によると、ヘイケボタルが日本で最も普通のホタルだとありました。何だかややこしい話になりましたから、最後にややこしくないホタルの絶唱をひとつ。物思へば沢の蛍もわが身より あくがれいづる魂かとぞみる 和泉あき



ゲンジボタル頭部



ヘイケボタル頭部

鎌倉はホタルの宝庫

鎌倉は至るところでホタルが見られますが、山沿いの川にはゲンジボタル、田んぼや湿地の周辺にはヘイケボタルが見られます。ゲンジボタルの方が大きくて、ゆっくり明るく光るので人気がありますが、ヘイケボタルは数多く見られます。台峯や広町、中央公園のような“谷戸”ではゲンジボタルとヘイケボタルの両方を見ることができます。ゲンジボタルは6月、ヘイケボタルは6月下旬～8月に見られます。市内の川の水質畫良くなっているのので、最近は住宅地でもホタルが見られる場所が増えています。

— 台峯を歩く会 2010年6月資料より

台峯の周辺一歴史つれづれー ① 山ノ内

皆様の中には年金世代の方も多かろうが、我が国の企業年金の嚆矢(こうし)は今なき鐘淵紡績において、後に社長となる武藤山治が1905年ドイツより移入したものと聞く。

武藤は科学的な経営や労働者の待遇改善に力を注ぎ、同社を大企業に育て上げた。その後は衆院議員など経て新聞「時事新報」の社長に就任したが、これが事件の始まりでもあった。

横須賀線の北鎌倉駅が仮停車場から常設の駅に昇格したのは1930年で、このあと北鎌倉に住んで通勤する人が増えたようである。武藤も山ノ内に別宅を建てて東京まで通った。1934年3月9日朝、書生とともに駅に向かっていたところ突然男が立ち上がり拳銃を数発発射、武藤は医院に運ばれたが、翌日絶命した。襲われた理由は時事新報の記事への反発とか、単なる金目当てとか、犯人が事件直後に自殺したため不明。が、世上哀れを誘ったのは主人を守らんとして身を挺した書生の死である。正面から眉間に弾丸を受けた即死であった。

青木茂は横浜市戸塚区の人で、大学に通いながら武藤家の書生をしていて

災禍にあった。 東京朝日新聞昭和9年3月10日版



模範青年で書生としての収入もほとんどを親に渡していたという。瀕死の武藤は青木を不憫に思い「遺族にはできるだけのことをするように」と遺言を残した。また地元も実家の近くに「人道之碑」を建立し、彼の死を悼んだ(戸塚区汲沢町大久保神社内)。

突然私事で恐縮だが、筆者の母方も青木姓で横浜である。茂の家は俣野で産婆をしていたとかで親戚関係にはないが、どうやら江戸時代に信州から出てきた同じ一族だったらしい。そんなこともあってか、茂のことは筆者も子供のころ年寄りから聞いた記憶がある。誇りだったのかもしれない。ところが、山ノ内には現在この事件を伝えるものは何もなく、忘れ去られている。そもそも現場は何処だったのだろうか?当時の新聞によると、武藤邸から間道を抜けて北鎌倉駅へ行く麦畑沿いの小さな道とか、約2町ほど山下のS氏邸前である、などの記事に写真や略地図まで添えてある。が、現場と思われるあたりは当時とは大分様子が異なっており、またS氏一族ももう住まわれていないようだ。本会報にも度々登場される川上克己氏に伺ったところ、ご本人もまだ生まれていなかったが、現在のX氏邸のあたりと聞いているとのこと。そこはほぼ想定していた場所ではあった。

美談であっても凶行現場に碑など建立しにくいかもしれない。しかし、この山ノ内で主人のために銃口に立ち上がった若者の勇気は、せめて皆さんの記憶の中に留まるよう語り継がれていくべきではなかろうか?駄文を認めた次第である。 本田隆史

活動報告

(2009/11月～2010/6月)

- 1 定例理事会 11/1・12/6・1/10・2/7・3/7
4/4・5/2・6/6・7/4
定例総会 6/6
- 2 台峯を歩く 11/15・12/20・1/17・2/21・
3/21・4/18・5/16・6/20・7/18
- 3 山道整備作業 11/14・12/19・1/16・2/20・
3/20・4/17・5/15・6/19・7/17
- 4 モニタリング 11/1, 14・12/6, 19・1/10, 17・
(マップ作り) 2/7, 20・3/7, 20・4/4, 17・
5/2, 15・6/6, 19・7/4, 17
- 5 台峯保全連絡会 11/24・12/18・1/28・2/26・
3/29・4/26・5/24・6/29・7/30
- 6 公園海浜課との現地調査及び作業
11/17・12/21・1/22・2/12・
3/23・4/23・5/21・6/7, 25・7/23
- 7 ホタル観察会 6/21・7/19, 26

伝言板

●カレンダー「台峯の四季」2011年版 発売予定

写真は、2010年版に引き続き「鎌倉の自然」(鎌倉市教育委員会発行)はじめ、基金の会報、様々な催し物のプレゼンテーションに素晴らしい写真を提供していただいている池英夫さんをお願いしました。サブタイトル「台峯で見られるトリ」です。

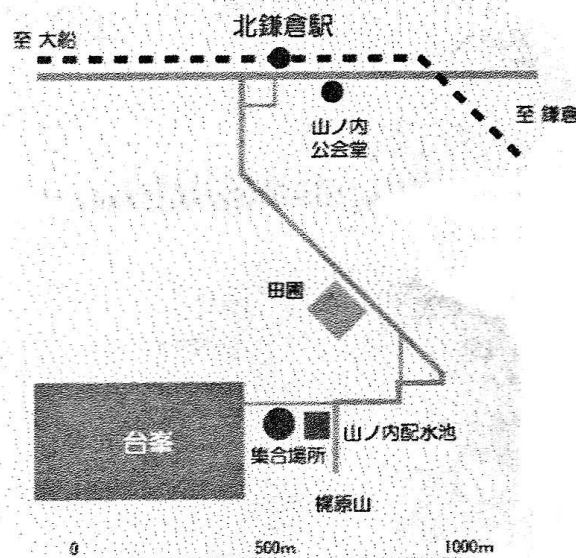
双眼鏡でも簡単には見られない小鳥シリーズを是非お手元に！今回も部数、400部といたします。10月半ばにはご予約承ります。どうぞよろしくお願いたします。

(池さんには今回の裏表紙「台峯の自然」にも見事なタカの写真を提供していただきました。)

手入りに参加しませんか？

服装は長袖、長ズボン、歩きやすい靴(湿地の作業は長靴)軍手と帽子、飲み物は必携。作業に必要な道具は用意します。

参加ご希望の場合は事務局にご一報ください
集合場所は下図、山ノ内配水池付近です。



新規会員募集中

年会費 2,000円

会費及び寄付金の振込み先

郵便口座番号 00250-2-20454

口座名 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

会報 23号

発行日 2010年8月19日

発行者 NPO法人 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

事務局 〒247-0062 鎌倉市山ノ内704-9

(和泉方) Tel 0467-47-9892

Email aramaki@gw3.u-netsurf.ne.jp

HP <http://www.kamakura-daimine-trust.org/>

写真提供: 池英夫・石原瑞穂

イラスト提供: 石原瑞穂・市川和夫

台 峯 の 自 然

私たちが普段よく見るトビはタカの仲間です。今回は、台峯でみられるタカを集めてみました。けれども肉眼で高い空を舞っている姿からその種類を判別するのは難しいのです。タカはトビより白くて小さいが、早く飛べる。トビは死んだものも食べるが、タカは生きたものを食べる。



トビ 1番大きい 黒っぽく見える



サシバ カラスぐらいの大きさ 4月、9月～10月上旬に良く見られる



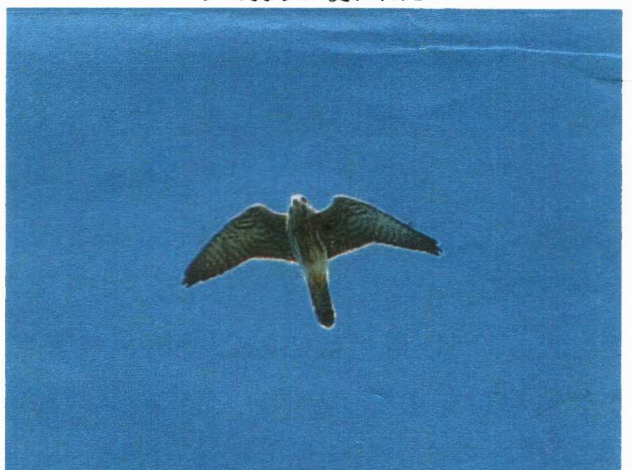
ハイタカ オオタカにそっくりだが、小さくハト大



オオタカ 尾羽根が長く、カラスほどの大きさ タカ狩りに使われた



ノスリ 冬に見られる。トビより少し小さい



チョウゲンボウ 翼が細く先がとがっている ハト大